

J-PARC NEWS

Japan Proton Accelerator Research Complex

大強度陽子加速器施設

平成24年10月26日発行

発行元: 日本原子力研究開発機構・高エネルギー加速器研究機構

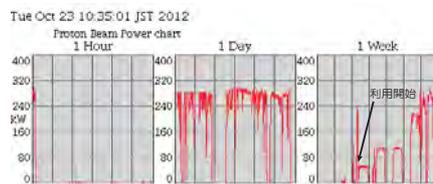
J-PARCセンター

〒319-1195 茨城県東海村白方白根2-4 Tel: 029-284-3731

Top News

1. J-PARCの利用運転再開

J-PARCは、7月～9月の長期メンテナンスを終了し、9月28日から加速器運転を開始した。その後、加速器スタディなどを進め、10月18日から実験施設の利用運転を再開した。



10月23日 MLF 運転状況(HP から)

2. 超高圧中性子回折装置「PLANET」完成式典

MLF の中性子ビームライン BL11 に建設された、中性子回折装置「PLANET」の完成式典が、装置関係者や実験利用者などが参加し、9月27日に開催された。装置は、高圧下における物性研究を行うため JAEA、愛媛大学、東京大学により整備され、今月から本格的な利用運転を開始した。



テープカットの様子

3. QENS/WINS2012 国際会議* 開催(9月30日～10月4日)

中性子準弾性散乱測定法を用いた物性研究に関する国際会議と、非弾性散乱分光器に関わるワークショップの合同国際会議を、J-PARC他4団体の主催のもと日光総合会館(栃木県日光市)で開催した。参加者約100名(国外55名)。基調講演5件、招待講演45件、一般講演14件、ポスター発表40件。本分野における先端的研究成果の報告に加え、研究者と分光器開発者の間の意見交換などが活発に行われた。

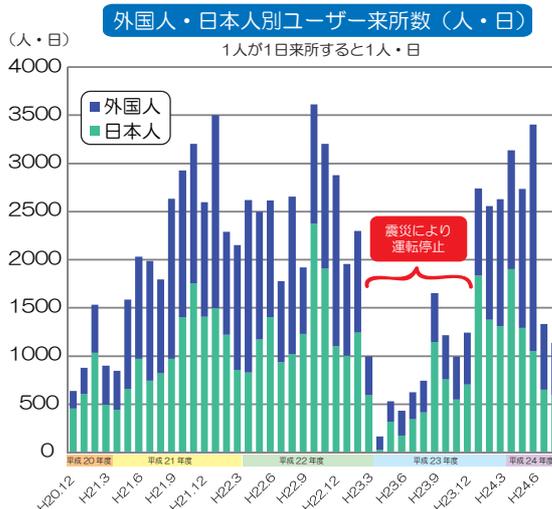


会議参加者の記念集合写真

*Nikko Joint Conference between 10th International Conference on Quasielastic Neutron Scattering (QENS) and 5th International Workshop on Inelastic Neutron Spectrometers (WINS)

4. J-PARCへのユーザー来所者の推移

平成20年12月の施設利用開始以来、多くのユーザーがJ-PARCを訪れている。今年8月末までのユーザー来所者の総数は、延べ87,817人・日となった。これまでの来所者数を月毎に集計したグラフを右に示す。平成21、22年度の来所者数は、それぞれ年間約3万人・日であった。平成23年は震災のため9カ月間運転が停止となり来所者は減少したが、平成24年1月の利用運転再開以降、来所者は震災前と同程度まで回復した。



5. 施設の状況

5.1 加速器運転計画

11月の運転計画は、下記の通りです。2012B期の施設利用は、21日からとなります。尚、運転計画は、機器の調整状況により変更が生じる場合があります。

11月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

RUN #44 : 9/28~11/18 RUN #45 : 11/19~12/26

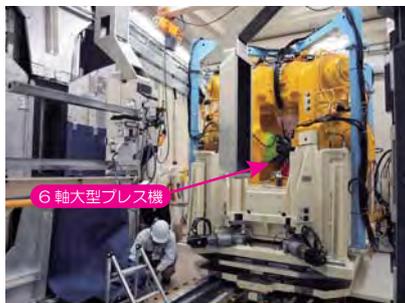
- 保守
- MLF スタディ
- 加速器チューニング&スタディ
- 物質・生命科学実験施設(MLF)供用運転(※1: 半日利用日あり)
- 50GeV シンクロトロン(MR)調整運転及びニュートリノ利用運転(※1) 又は、MR ビームはアポートダンプへ
- MR 調整運転及びハドロン利用運転(※1) 又は、MR ビームはアポートダンプへ

5.2 実験施設関連

- (1) 物質・生命科学実験施設(MLF)のBL03では、中性子検出器が全体で30台に増設された。また、BL11「PLANET」では、6軸大型プレス機のコミッショニングが進められた。
- (2) ハドロン実験施設では、KOTO 実験装置への検出器設置作業が進められている。



BL03 茨城県生命物質構造解析装置「IBIX」 (物質・生命科学実験施設)



BL11 超高圧中性子回折装置「PLANET」 (物質・生命科学実験施設)



KOTO 実験装置の組立て (ハドロン実験施設・KL ビームライン)

6. 特記事項

6.1 第4回J-PARC/MLFシンポジウム、茨城県ビームライン平成23年度成果報告会

標記シンポジウム・報告会が、10月10-11日に日本科学未来館で約200名の参加者を集めて合同開催された。実験装置の現状報告、利用研究や装置開発の成果などを紹介、今後の研究展開に向けた活発な議論も行われた。また会期中には、J-PARC/MLF利用者懇談会総会も開催され、今年度の活動計画などが紹介された。



シンポジウム参加者の集合写真

6.2 文化財科学講演会(9月28日 / 東京)

～放射光・中性子で文化財を探る～

文化財の調査研究では、その対象を傷つけて調べることができない場合が多く、非破壊的手法が非常に有効である。講演会では、放射光や中性子を利用した研究成果の紹介が6件行われた。J-PARCセンター中性子利用セクションの神山崇リーダー(KEK教授)からは、中性子を使った研究が紹介された。講演会は、理化学研究所、他3団体が主催。



講演会の様子(9/28)

6.3 ご視察等

- 9月26日 国際結晶学会 高圧ワークショップ参加者
- 10月18日 白川哲久 JASRI 理事長
- 10月19日 福島県伊達市役所市民生活部 半澤隆宏次長
- 10月19日 ベトナム労働総連合代表団